

ほのぼの News Letter



No.10 2018年1月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



CONTENTS

-
- | | | | |
|---|----------------|----|------------|
| 2 | ほのぼの憲章 | 8 | 第3回 域学交流事業 |
| 3 | 第12回 ほのぼのフォーラム | 11 | お知らせ |

ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っただけのような店づくりをします。
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの
“ほのぼの”を追求しつづけます。
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな
かから、新しい社会を創造します。

一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切にし、前進します。
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共
有し、つねに忘れません。

第12回 ほのぼのフォーラム

■大河原毅理事長あいさつ

みなさん、おはようございます。

早いもので、ほのぼのフォーラムも12回目を迎えることができました。女性の社会進出、シニア世代の活躍、日本の農業を守ろう、そういった思いではじまったこのほのぼの運動ですが、各店舗で働くみなさん、協力会社のみなさんといっしょに、一つひとつ積み上げながら、今日まで続けてきました。

一昨年からは京都大学のiPS細胞研究所に、今回は、また新しい支援先を迎えることもできました。

東北の被災地支援として行っている忘れな草プロジェクトでは、開催場所として巣鴨と東北へも進出を果たし、仙台と郡山でも開催することができました。山王ロータリークラブのみなさんもこちらに支援をしてくださることが決まり、栽培してくださる高校も新しくふえるということで、これはまだまだ広がっていくという実感です。

われわれのこういった活動は今後海外へも広がっていくものだと思いますが、これまでどおり、いいものは変えない、でも変えるべきものは変えるということで、一步一步積み上げて、継続する活動をしていきたい。

そういった意味で、今回、店舗のみなさんに一人でも多くご参加いただけるようにとのことから、このほのぼのフォーラムの開催を8月にいたしました。年に1回、ここでみなさんの顔を拝見し、われわれがやっている活動は間違いのないんだということを確認し、心をひとつにすることで、着実に進んでいきたいというふうに思います。



■ 第12回 ほのぼのフォーラム開催

2017年8月24日、真夏の晴天が広がる中、第12回ほのぼのフォーラムを国際文化会館にて開催いたしました。より多くの店舗関係者の方にご参加いただきたいとの思いから、例年は秋口に開催していたフォーラムをたい焼き店の閑散期である8月に開催し、多くのみなさんにご参加いただきました。

当日は、前半は各店舗の紹介、支援団体さまによるプレゼンテーション、各委員会からの報告がありました。後半は軽食をいただきながら、会員さまの紹介、本部スタッフの紹介、理事の紹介、そして恒例のじゃんけん大会と盛りだくさんのプログラムでした。

各店舗プレゼンテーション

東京屈指の繁華街のひとつである六本木駅から10分ほど歩いたところの閑静な地域にある国際文化会館。今回で12回目となるほのぼのフォーラムは、店舗関係者、支援団体さま、会員のみなさま、本部スタッフ、理事など総勢67名がこの国際文化会館に集まりました。

於保理事の司会で12時にスタートし、まずはおめで鯛焼き本舗ベニバナウォーク桶川店店長の石川彩さん、おめで鯛焼き本舗マーケットプレイス東大和店店舗責任者の箕輪丈太さんのふたりのリードで、ほのぼの運動憲章の唱和を行いました。続いて、大河原毅理事長よりあいさつをさせていただきました。いつもながら、大河原理事長の言葉はたいへん力強く、このほのぼの運動の意義を再認識できるとともに、活動するわたしたちに自信を与えてくれるものでした。



於保裕美理事



箕輪丈太さん(左)と石川彩さん(右)



大河原毅理事長

その後、ほのぼの日日運動推進委員会より活動報告および各店舗のほのぼの活動プレゼンテーションが行われました。ほのぼの日日推進委員会は、儘田副理事長を委員長に、高橋理事、株式会社ジェーシー・コムサの田嶋さんらで組織されています。ほのぼの運動の理念にのっとり、各店舗がどのようなほのぼの活動をしているか、これからどういった活動をしていけるかなど、横のつながりを強くしながら、ほのぼの運動を広げていこうというものです。

儘田委員長のあいさつ、メンバー紹介の後、この日参加している各会社ごとに前に出て店舗のプレゼンテーションをしていただきました。この日プレゼンテーションをしていただいた会社および店舗は、以下のとおりです。(写真も同じ順番です)

● **有限会社メディア・サーカス** (夢ある街のたいやき屋さん The Peanuts 与野店)

● **株式会社アーミツ** (おめで鯛焼き本舗フォレストモール新前橋店、おめで鯛焼き本舗高崎並榎店、おめで鯛焼き本舗ベルモール宇都宮店、おめ



儘田享仁副理事長

で鯛焼き本舗スマーク伊勢崎店、おめで鯛焼き本舗アリオ深谷店、夢ある街のたいやき屋さん宇都宮陽西通り店、おめで鯛焼き本舗イオンモール武蔵村山ミュージー店、おめで鯛焼き本舗マーケットプレイス東大和店)

- **株式会社日本シンライサービス** (おめで鯛焼き本舗イオンモール川口前川店)
- **株式会社フクシマ商事** (おめで鯛焼き本舗湘南モールフィル店、おめで鯛焼き本舗トツカーナモール店、おめで鯛焼き本舗湘南台駅前店、おめで鯛焼き本舗イオンモール大和店、おめで鯛焼き本舗藤沢駅前店)
- **株式会社フラップインターナショナル** (おめで鯛焼き本舗ピオニーウォーク東松山店、おめで鯛焼き本舗バナウォーク桶川店)
- **社会福祉法人翔の会** (夢ある街のたいやき屋さん若松町店)
- **株式会社ジェーシー・コムサ** (えびす黄金鯛焼き町田小田急店、おめで鯛焼き本舗戸越銀座店、おめで鯛焼き本舗L A Z O N A川崎店、おめで鯛焼き本舗ららぽーと柏の葉店、おめで鯛焼き本舗トレッサ横浜店、おめで鯛焼き本舗新百合ヶ丘エルミロード店、鬼平江戸処羽生P A上り文楽焼本舗、おめで鯛焼き本舗アトレ浦和店、おめで鯛焼き本舗アピタ金沢文庫店、おめで鯛焼き本舗マルイファミリー志木店)



各社・各店舗が行っている地域でのほのぼの活動のプレゼンテーションは、他店の参考になるだけでなく、このほのぼの運動の原点について考えさせてくれるものでした。活動の幅が広がっていく一方で、日々の営業の中にも地域へなんらかの貢献ができるということを示してくれました。なお、今回はほのぼの大賞およびほのぼの運動貢献賞を選定するのではなく、これから1年ほのぼの運動を推進するための活動費として、全店に10,000円の活動支援金を配布いたしました。来年の活動報告がまた一層楽しみです。



支援団体プレゼンテーション

続いて、寄附先選定委員会より継続的支援先についての紹介がありました。

寄附先選定委員会は、継続的に支援をしている団体と面接等を定期的に行い、引き続き支援を行うかどうか判断します。また、新規でお申し込み等があった団体とも面接を行い、支援をするか否かを判断する委員会で、安家副理事長を委員長に、穴沢監事、草間理事、木村理事で構成されています。

今回、新たに1団体継続的支援を行う団体が決まったことから、その報告を安家委員長がいたしました。

その後、トップバッターで勇気の翼インクルージョンが欠席だったため作間事務局長が代理でプレゼンテーションをさせていただいた後、フリースクールを運営されている東京シューレ、18歳までの子どもの電話相談を受けているチャイルドライン、福島の親子を保養を目的としたFoE ジャパンの福島ほかほかプロジェクト、園芸を使った癒しやリハビリテーションを行っている日本園芸療法研修会、子育て中のお母さんを支える子育てアドバイザー協会の順に発表をしていただきました。最後に、今年から支援が決まったNPO法人くればすのプレゼンテーションが行われました。くればすは、障がい者のある人もない人も心豊かに暮らせる社会の実現をめざし、障がい当事者で組織された団体です。障害のある人が社会に出る際にぶつかるであろう問題を解消するために日々活動されています。くればすと二人三脚で活動している介助派遣事業をされているぴあ・ぱれっとのご紹介もいただきました。



安家美津志副理事長



東京シューレ



チャイルドライン支援センター



FoE ジャパン



日本園芸療法研修会



日本子育てアドバイザー協会



自立生活支援センターくればす、ぴあ・ぱれっと



みなさん、たいへんすばらしいプレゼンテーションで、各店舗、会員企業からのお金がほのぼのの運動協議会を通じてどういった形で利用されているのかを知ることができました。

大河原理事長より目録を贈呈させていただき、日々活動されているみなさまへの感謝と、引き続きの支援・協力をお約束いたしました。

懇親会

プレゼンテーションの後は、全員でお庭へ出て記念撮影を行いました。真夏の暑い陽射しの中、会場の準備が整うのをしばし歓談をしながら待ちました。

後半は、大河原愛子会長による乾杯のあいさつでスタートしました。ユーモアの混じった場を和ませるジョークでの乾杯で、一気に場の空気も和みました。

お食事をいただきながら、途中、忘れな草プロジェクト実行委員会より報告がありました。小島委員長が欠席だったため、作間事務局長が代理で報告をさせていただきました。次回の第5回忘れな草プロジェクトには、栽培いただく高校も4校に増えること、また配布も巣鴨で2日、代々木公園で2日、さらに東北でも2日とますます拡大することが発表されました。

また、この日、偶然儘田副理事長がお誕生日ということで、みんなでハッピーバースデーの歌を歌うなど和気藹々とした雰囲気でもなさん楽しまれていました。



会員のみなさま、理事の紹介が終わると、恒例のじゃんけん大会に突入。会員企業のみなさまからいただいた協賛品をめぐって必死の形相で行うじゃんけんは、例年どおりたいへんな盛り上がりでした。

最後に中川常任理事からのあいさつをさせていただき、第12回ほのぼののフォーラムは終了となりました。年に1回、一堂に会して絆を深めるフォーラムですが、今回も盛会のうちに終わることができました。お忙しい中、調整してご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



第3回 域学交流事業 現地視察——北海道八雲町×上智大学×ほのぼの運動

ほのぼの運動協議会の独自の活動として2015年より始まった域学交流事業。この活動は、日本のよりよい未来のために日本の伝統・歴史を若い人たちといっしょに学び、そこから新しい何かを創造していこうという取り組みです。

総務省が提唱する「域学連携～地域づくり活動」にのっとり大学教員、大学生とともに地域の現場に入り、地域の住民や団体等とともに地域の課題解決または地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行っています。

2017年には、9月14日（木）から3泊4日にわたり、北海道八雲町へ上智大学の教員、学生とともにうかがいました。その様子をご報告いたします。

初日

上智大学の学生10名、引率の教員3名は新幹線で、ほのぼの運動協議会のスタッフは飛行機で函館に向かい、そこからおのおの電車で八雲町へ向かい、町のシンボルともいえるハーバスター八雲に集合しました。今回のテーマは「SDGs」。持続可能な社会の実現へ向けた開発ということで、現在の八雲町の取り組みについて学ぶとともに、その将来について上智大学の学生と地元八雲町の高校生とでディスカッションしてもらうことが大きな目的です。初日はガイダンスとして自己紹介と八雲町で行われている再生エネルギーへの取り組みについての講義、簡単なディスカッションを行いました。



2日目

朝、10万匹以上の鮭が遡上し自然産卵することで有名な立岩遊楽川に立ち寄った後、「資源循環型牛肉生産」を行っている北里大学八雲牧場へ。出た家畜の糞尿を発酵させ、堆肥として牧草を育て、それを再び家畜が食べるという資源の循環を行っている現状を視察しました。



次に平野牧場へ行き、バイオマス発電についてお話をうかがいました。

八雲町活性化施設で昼食をとった後、上智大学大学生を中心に3つのグループに分かれ、これまでの視察で関心を深めた題材を出し合い、研究・発表テーマを決定いたしました。その後、八雲高校へ訪問、対面式を行いました。4日目には、大学生と高校生とで共同発表を行ってまいります。

3日目

日の出とともに宿を出て、前日訪問した平野牧場へ畜産実習に行きました。牛舎の掃除、牛の乳搾りなどを経験。その後、先日は講義だけだったバイオマス発電の現場を見学させていただきました。



午後からは落部漁協地方卸売広場で稚魚の分散作業をし、海上へ出て再びかごを海に戻す作業を体験。



4日目

最終日は再び活性化施設に集い、最後のディスカッションの後、各グループの発表を行い解散。後日行われる上智大学でのシンポジウムに向けた下地を行い、現地視察を終えました。



第3回 域学交流事業 視察報告会——北海道八雲町×上智大学×ほのぼの運動

2017年11月22日水曜日、上智大学キャンパスにおいて報告会が行われました。最終日に地元の高校生と共にディスカッション・発表したものを持ち帰り、さらにブラッシュアップして今回プレゼンしていただきました。これは上智大学の学生たちが自ら企画した報告会でしたが、八雲町から岩村町長、プロジェクトの中心となってサポートくださいました町役場の佐々木さんが上京くださり、また上智大学の教職員のみなさん、当協議会の大河原理事長はじめスタッフも参加させていただきました。



各グループの発表は、地球環境を考えたもの、地方創生の視点から、どのように人を呼び込むかなど、世界各国のケーススタディや成功事例の紹介、八雲町の認知度を上げるための戦略など、それぞれ興味深いものばかりでした。これからの八雲町の発展にうまくつながることを願います。

■ 域学交流事業

共催：一般社団法人ほのぼの運動協議会、八雲町、上智大学、八雲町産業連携促進協議会

後援：八雲観光物産協会



■ 第12回ジェーシー・コムサ主催 ほのぼのチャリティーゴルフコンペ

10月11日（水曜日）ほのぼのチャリティーゴルフコンペが開催されました。当協議会設立当初から開催されているこのコンペも干支を一周しました。徐々に参加企業様も増えていられ、今回は90名の企業様にご協力いただきました。誠にありがとうございます。これからも皆さまと一緒に社会貢献できる環境を作ってまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。



★ほのぼの基金協賛金

【事前入金】（プレー代・参加費として）
3,000円×90人＝270,000円

【当日回収】（ペナルティやその他寄付金）
181,000円

合計 451,000円

■ 京都 iPS 細胞研究所チャリティーゴルフコンペ

11月27日、京都大学 iPS 細胞研究所、山中教授を応援するためのチャリティーゴルフコンペが開催されました。今回は大河原理事長が理事を務める程ヶ谷カントリークラブとロータリークラブが主催となり、当協議会からも理事長はじめ副理事長、理事の皆様はもちろん、忘れな草プロジェクトなどに協力いただいている方々にもお声をかけ、合計約140人の方々と参加させていただきました。コンペの後は、山中教授のセミナー、懇親会、写真撮影という流れでした。

山中教授が医学の道に入ったのは、お父様が輸血が原因で肝硬変になってしまったことがきっかけだったそうです。その後、免疫の力で克服できることを知り、研究を重ねてこられたそうです。あらゆる細胞になる能力を持つ万能細胞の iPS 細胞はほぼ無限に増やすことができます。普通は自分の細胞でないとい体が拒否反応を起こすのに、なんと世の中にはどんな人にも適応するスーパードナーと呼ばれる存在が何万人に1人の割合でいて、その1人お細胞で2000万人が救われるのだそうです。そのように他人の細胞から作っておければ、大勢の人に安価に提供できる……。そこで京都大学 iPS 細胞研究所が「ストック事業」を進めているそうです。

一番の課題である「時間」と「価格」が早期に解決し、実用化されることを期待します。



第5回 忘れな草プロジェクト ～一粒の希望から～

2018年開催の第5回忘れな草プロジェクトが動きはじめました。今回から、栽培してくれる高校が1校増え4校に、また東京での開催も1日増え4日になりました。以下、東京での配布スケジュールです。

- 3月10日(土) 巢鴨地蔵通り商店街入り口「すがもん広場」 会津農林高校
- 3月11日(日) 巢鴨地蔵通り商店街入り口「すがもん広場」 岩瀬農業高校
- 3月17日(土) 代々木第一公園「アイラブアイルランド・フェスティバル」 福島明成高校
- 3月18日(日) 代々木第一公園「アイラブアイルランド・フェスティバル」 磐城農業高校

※時間、東北での開催日程等は決まり次第、ウェブサイト等でお知らせいたします。



写真は、今回初参加の岩瀬農業高校のみなさんです。このプロジェクトの趣旨を生徒さんにお話したところ、活動に参加できることにワクワクしながら楽しそうに、協力して実習に取り組んでくれたとのこと。2月27日には手渡し式で訪問する予定です。お会いするのが楽しみです。

また店舗でワスレナグサを配りたいという方はぜひ事務局までご連絡ください。たくさんの方のご参加をお待ちしています！

酉年から戌年にかわって間もないですが、みなさん何か変化を感じていますか？ わたしにとって酉年はいつになく忙しく、一言で言うと追いかけられているような1年でした。次から次といろんな事が起こり、振り返ることもできず、また走る。昨日のことも一ヶ月前の出来事に感じるくらい。(それは言い訳で、ただ歳をとっただけだろうと言われそうですが〈笑〉)

今年のわたしのテーマは「どうしたら丁寧な生き方ができるか」です。朝起きて寝るまでに1つでいいから「これは丁寧にした」といえることを作る。機能性、利便性、合理性を求めた果てに、せっかちになり大切な何かを見落としてしまいかねない昨今。今年こそ、丁寧に過ごす時間を作りたいと思う今日この頃です。

事務局長 作間由美子

ほのぼの News Letter No.10

発行日：2018年1月30日

発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会

編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1

A-PLACE 恵比寿南 2 F

TEL:03-5722-1070

FAX:03-5722-7396

問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org